

コモンズ30+しずぎんファンド

追加型投信 / 内外 / 株式



基準価額の推移

2014年12月29日 ~ 2021年3月31日



※「分配金込基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、運用管理費用（信託報酬）は控除しています。※当ファンドの信託報酬率は、ファンドの純資産総額の一定の増加により逓減する仕組みとなっており、当レポート作成基準日現在、年率1.265%（消費税込）です。



運用実績

2021年3月31日時点

基準価額

16,453 円

(前月末比)

+1,073 円 (6.98%)

純資産総額

9.7 億円

(前月末比)

+0.6億円 (6.80%)

騰落率(分配金込)

期間	騰落率
1ヵ月	6.98%
3ヵ月	10.16%
6ヵ月	22.41%
1年	47.72%
3年	24.02%
5年	74.92%
10年	-
設定来	64.53%

分配金 (1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2016年12月	0円
2017年12月	0円
2018年12月	0円
2019年12月	0円
2020年12月	0円
設定来合計	0円

※「基準価額」およびその「前月末比」は分配後です。※「騰落率」は、基準日から過去に遡った期間です。税引前分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。※収益分配金は委託会社が決定します。分配を行わない場合もあります。



ポートフォリオの構成比

種別	比率
コモンス30ファンドマザー	91.6
静岡銀行株式	8.2
現金等・その他	0.2
構成銘柄数	32社

※2021年3月31日時点



ポートフォリオの状況

業種別比率

機械	21.6%
化学	15.2%
電気機器	13.4%
サービス業	10.5%
輸送用機器	7.1%
卸売業	5.5%
情報・通信業	3.9%
陸運業	3.5%
金属製品	3.5%
建設業	3.2%
食料品	3.2%
小売業	3.1%
医薬品	3.1%
繊維製品	1.9%
その他	1.2%

未来コンセプト別比率

生活ソリューション	16.1%
精密テクノロジー	14.2%
ウェルネス	14.1%
新素材	11.7%
快適空間	10.6%
資源・エネルギー	8.7%
地球開発	7.4%
未来移動体	7.1%
ライフサイクル	5.9%
社会インフラ	3.0%
その他	1.2%

組入上位10銘柄

銘柄	未来コンセプト	銘柄概要	組入比率
1 KADOKAWA	生活ソリューション	IP創出力とIT技術力に支えられ、変化を恐れず挑戦し続ける	3.9%
2 東京エレクトロン	精密テクノロジー	創業時のエネルギーが、脈々と続く「革新」を続ける会社	3.8%
3 クボタ	地球開発	日本で培った競争力で、アジアの食糧問題に寄与	3.8%
4 ディスコ	精密テクノロジー	kiru, kezuru, migaku, 世界を代表する精密加工装置メーカー	3.7%
5 ホンダ	未来移動体	夢と技術で、難局をチャンスに変える	3.6%
6 コマツ	地球開発	世界のインフラを作る日本のモノづくり力&IT力	3.6%
7 ダイキン工業	快適空間	世界一快適な空気をつくる	3.6%
8 ユニ・チャーム	ライフサイクル	世界企業と切磋琢磨し、空白地帯で成長	3.6%
9 ヤマトHD	生活ソリューション	「クロネコヤマトの宅急便」で親しまれる宅配便業界のトップ	3.5%
10 信越化学工業	新素材	戦略的なポジショニングに優れ、素材メーカー随一の収益性	3.5%

※2021年3月31日時点

※「ポートフォリオ別構成比」「未来コンセプト別比率」「組入上位10銘柄」に関しては、マザーファンドについての記載になります。

※各比率はマザーファンドの純資産総額を100%として計算しております。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

※その他とは現金等を指します。

◎「未来コンセプト」とは、当ファンドが行っている業種分類です。以下のように10種類に分類を行っております。

「資源・エネルギー」「新素材」「精密テクノロジー」「ウェルネス」「生活ソリューション」「社会インフラ」「未来移動体」「快適空間」「地球開発」「ライフサイクル」



運用状況

◎運用レビュー

3月のファンドの月間リターンは+6.98%の上昇となりました。

◎運用責任者メッセージ (コモンズ30マザーファンドについての記載となります)

3月の内外株式市場は、香港、上海市場など一部のアジア地域を除くと欧米市場中心に世界的な株高となりました。米国では追加経済対策とワクチン接種の進展などからNYダウが史上最高値を更新、欧州でも景気回復期待からドイツDAXが史上最高値を更新しました。

国内株式市場も景気敏感株中心に上昇し、TOPIX（東証株価指数）が1991年4月以来の2,000ポイント台を回復しました。

当マザーファンドも先月に続き運用開始以来の最高値を更新し、月間で+6.68%の上昇、投資先31銘柄中27銘柄が値上がり、4銘柄が値下がりとなりました。同期間のTOPIX（東証株価指数；配当込）は+5.71%、日経平均株価は+0.73%の上昇でした。

当ファンドの株式の組入比率は、98.8%と、前月比では+1.5%の上昇となりました。個別銘柄の月間騰落率では丸紅が+16.31%の上昇、デンソー、リンナイ（上昇率順）など9銘柄が10%を超える上昇となりました。

上場来高値を更新した銘柄もリンナイ、デンソー、東京エレクトロン、KADOKAWA（銘柄コード順）の4銘柄となっています。

3月の日銀短観を見ても、製造業を中心に景況感は大きく改善しています。4月、新年度を迎える企業が多いですが、当ファンド投資先企業の業績はコロナ禍でも企業努力により好調を維持するところが多いと考えています。引き続き、どうぞご期待ください。

最高運用責任者 伊井 哲朗

投資委員会メンバー

○伊井哲朗、渋澤健、上野武昭、末山仁、原嶋亮介/○は最高運用責任者

組入比率と組入銘柄については、マザーファンドについての記載となります。



新規組入投資先

なし



今月のピック！

◎ (8002) 丸紅

3月の丸紅の株価は16.31%上昇しました。過去3カ月でも34%上昇、過去6カ月でも55%と大幅に上昇しました。

同社は、「何が起ころうとも揺るがない基盤を構築するとともに、商社の枠組みを超え進化し続ける価値創造企業グループ」を目指していますが、株式市場に理解されてきたのかもしれませんが。業績面では、2021年3月期の当期利益の計画を昨年5月の1000億円から、11月に1500億円に上方修正、今年2月には1900億円へ再度上方修正しました。

2019年4月に就任した柿木社長への信頼感も高まってきているように思えます。過去、同社は思い描いたような利益が出ない時期もあったのですが、手がけた投資案件を含めて、真摯に反省し、今後の経営に生かそうとしています。企業価値を高めるためには、社員一丸となることが重要ですが、社長就任後の1年間は、メッセージを浸透させるべく、社員を少人数ごとに分け、国内外の多くの社員とのミーティングに時間を割き、コミュニケーションをとってきました。

シニア・アナリスト 上野 武昭

◎ (5947) リンナイ

3月はリンナイの株価が14.94%上昇しました。

2021年3月期第3四半期決算は業績の順調な進捗が確認できる内容であり、また、通期の業績予想では、年度の前半に新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けていたにも関わらず、過去最高となる385億円の営業利益を見込んでいます。国内ではオート調理機能付きガスコンロやガス衣類乾燥機「乾太くん」、米国と中国においては給湯器の販売が引き続き好調であることに加え、原価低減活動の効果も出てきています。

同社は、2019年3月期まで3期連続で営業減益となる苦しい時期がありましたが、その間にしっかりと自社の課題を整理し、顧客視点に立った商品開発、アフターサービスの充実などを進めたほか、原価低減に関しても従来の枠組みにとらわれない組織横断の取り組みを行ってきたことが着実に成果となって表れてきているものと感じます。

アナリスト 原嶋 亮介

◎ (2802) 味の素

3月は味の素の株価が6.91%上昇しました。1月29日に発表した2021年3月期第3四半期決算で通期見通しを上方修正しましたが、材料出尽くし感から2月にかけて株価が下落しました。3月に入って、値ごろ感などから買いが入り株価は上昇に転じました。

3月23日に味の素主催のIR説明会がWEB形式で開催されました。西井社長からは、「食と健康の課題解決企業」の中期課題の実現に向けて、2030年までに、“10億人の健康寿命を延伸”、“事業を成長させながら、環境負荷を50%削減”といった意欲的な目標に加えて、“アミノ酸のはたらきで食習慣や高齢化に伴う食と健康の課題を解決し、人びとのウェルネスを共創する”ことを「味の素グループビジョン」として2030年に向けた新たなビジョンとする旨の説明がありました。

次期中期経営計画について、期間は2020年度から2025年度の5年間で、前半部分の2020年度から2022年度をフェーズ1、2023年度から2025年度をフェーズ2とし、

フェーズ1を「構造改革」、フェーズ2を「再成長」の期間と位置付け、デジタル・トランスフォーメーション(DX)により変革を推進していく旨の説明がありました。

次期中計の全体像が良く理解出来て長期投資を行う上で大変参考となる有意義な機会となりました。

シニア・アナリスト 末山 仁



【こどもトラストセミナー企業訪問編開催決定！資生堂と学ぶ「なぜ？なに？日焼け・紫外線」】

2021年最初のこどもトラストセミナー＜企業訪問編＞の開催が決定しました。
横浜にある**資生堂**の研究所「資生堂グローバルイノベーションセンター」を訪問し、「紫外線」について学びます！

「**資生堂グローバルイノベーションセンター**」は、2019年4月に本格稼働した資生堂の最先端の開発研究拠点です。

その1階と2階には、“美のひらめきと出会う場所”をテーマとした「**S/PARK (エスパーク)**」が開設され、誰でも自由に訪れることができる美の複合体験施設となっています。

この施設の一室をお借りし、「**なぜ？なに？日焼け・紫外線**」をテーマに「なぜ日焼けは起こるのか？」そして「紫外線から自分を守る方法」を学びます。

また、セミナーの前後に、保護者や家族とS/PARK見学をしていただくことも可能です。

□こどもトラストセミナー＜企業訪問編＞

資生堂と学ぶ「**なぜ？なに？日焼け・紫外線**」

4月24日（土）15:00～

<https://www.common30.jp/seminars/detail/1158>



私たちが開催するこどもトラストセミナー＜企業訪問編＞は**各企業の「働く現場」にこどもたちとお邪魔して見学・体験**させてもらっています。

大人が働く現場を訪れ、その現場を見たり体験することはこどもたちにとっても知らなかったこと、働くことの大切さを学べるいい機会です。

また、一つ一つの**企業活動の営みが社会を作り、そしてそれを応援することが「投資」であることを体験を通じて知ってほしい**という思いから定期的に開催しています。

昨年はコロナ禍ということでリアル開催ができませんでしたが今年には可能な限り開催していきたいと思っています。

一方、恒例となったオンラインでのこどもトラストセミナー「**おかねの教室**」「**寄付の教室**」は引き続き定期開催してまいります！

ぜひふるってご参加ください！

■4月28日（水）17:00～18:00

【オンライン】こどもトラストセミナー「**おかねの教室**」（小4～6対象）
「投資を探求せよ」

<https://www.common30.jp/seminars/detail/1161>

■5月5日（祝・水）10:00～11:00

【オンライン】こどもトラストセミナー「**寄付の教室**」（小1～3対象）

<https://www.common30.jp/seminars/detail/1168>

マーケティング部 福本 美帆



【SDGsと長期投資】

新年度に入り、メディアでは入社式の様子が報じられています。コロナ禍で就職活動も大変だったでしょうから、新社会人のみなさんにとってはきっと感慨深い一日になったことでしょう。

さて、この春、卒業された方々に就職先企業を決めた理由を調査した結果を拝見したところ、1位 社会貢献度が高い、2位 将来性がある、3位 職場の雰囲気が良い、4位 給与・待遇が良い、となっていました。

今の若い世代は東日本大震災やコロナ禍などを経験していることもあり、SDGsネイティブ、ESGネイティブと感じていましたので、まさに、その傾向が調査結果にも出ていると思えました。

コモンズ投信では、SDGsやESGの意識の高い企業はよい人財に恵まれ、長期的な成長を実現していく可能性が高いと考えています。

このSDGsは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。外務省のHPでは、17の開発目標について、

1. 貧困や飢餓、教育など未だに解決を見ない社会面の開発アジェンダ、
2. エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消などすべての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済アジェンダ、
3. 地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境アジェンダ

といった世界が直面する課題を網羅的に示しています。

SDGsは、これら社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17のゴールを、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

と説明されています。こうした課題に積極的に取り組む企業で自身も頑張りたいと考えている学生が増えてきているということなのでしょう。

私も、こうした若い世代や彼らが活躍する企業を全力で応援したい気持ちになります。

一方で、企業側にも投資家側にも、SDGsやESGの実践はコストがかかるだけで企業の成長や投資成果にはつながらないとの声を聞くことがあり、とても残念な気持ちになります。

短期的にはともかく長期的にはよい人財が活躍する企業が成長できないはずがありませんし、特に気候変動問題は大きなイノベーションのチャンスでもあります。

また、投資の世界についていえば、SDGsはゴール、その達成に向けたプロセスがESG投資という関係ですから、ESG投資こそ長期投資が必要です。

貧困、飢餓、エネルギーや気候変動といった問題は、数か月や1年程度の単位で解決できる課題ではないからです。

昨年、コモンズ30ファンドが日本株ファンドのESG評価で1位に選ばれましたが、まさに30年目線の長期投資を実践しているからの結果だと自負しています。このエッセンスは、当該ファンドにも十分に反映されています。

どうぞ、今後とも長期投資を通じた明るい未来の実現のため、ご一緒に参りましょう。

今年度もよろしくお願い申し上げます。

コモンズ投信代表取締役社長兼最高運用責任者





販売会社一覧

販売会社名称	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第5号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	○
静銀ティーム証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第10号	○			



投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま（受益者）の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま（受益者）に帰属します。なお、投資信託は預貯金と異なります。

お客さま（受益者）には、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、ご投資の判断をしていただくよう、よろしくご申し上げます。

なお、下記のリスクはすべてのリスクを網羅しているわけではありませんので、ご注意ください。

基準価額の変動要因となる主なリスク

株価変動リスク	当ファンドは実質的に国内外の株式を組入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。一般に株式の価格は、個々の企業の活動や業績、国内および国外の経済・政治情勢などの影響を受け変動します。株式の価格が下落した場合には基準価額は下落し、投資元本を割込むことがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引が行えない、または取引が不可能となる場合が生じることを流動性リスクといます。この流動性リスクの存在により、組入銘柄を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
為替変動およびカントリーリスク	外貨建資産を組入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失を生ずることがあります。また、当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、当ファンドの基準価額が大きく変動するリスクがあります。



その他の留意点

収益分配金は、預貯金の利息とは異なります。収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部戻りに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産額の減少、基準価額の下落要因になります。



ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。なお、販売会社における購入申込手数料率は3.3%（消費税込）が上限となっております。
換金手数料	ありません。
運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に年1.265%（消費税込）を上限とした率を乗じて得た額とします。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逓減する仕組みになっています。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用・手数料	当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として、純資産総額に対して年0.11%（消費税込）を上限として投資信託財産より控除されます。上記の手数料（費用）等の合計額については、運用状況、保有機関等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。



お申込みメモ

その他	商品分類	追加型投信/内外/株式
	信託設定日	2014年12月29日
	信託期間	無期限（ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には信託期間の途中で信託を終了させることがあります。）
	決算日	原則として毎年12月18日（休業日のときは、翌営業日を決算日とします。）
	配分方針等	毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。当ファンドは分配金再投資専用です。よって、分配金は税金が差引かれた後、自動的に再投資されます。なお、収益の分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。
	購入単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。
	購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
	換金単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問合せください。
	換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
	換金代金の支払い開始日	換金申込日から起算して5営業日
	申込締切時間	購入・換金ともに原則毎営業日の午後3時までです。午後3時を過ぎてのお申込みは、翌営業日のお申込みとして取扱います。



ご注意事項

- ・本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。
- ・このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。
- ・投資信託の取得を希望される方は、コモンズ投信または委託会社が指定した販売会社でお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）を必ずご確認くださいのうえ、ご自身の判断でお申し込みください。



関係法人

委託会社

コモンズ投信株式会社
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-5 平河町Kビル5階

- ・金融商品取引業者
- ・関東財務局長（金商）第2061号
- ・加入協会 一般社団法人投資信託協会

お問い合わせ先

- コールセンター（受付時間/平日 午前10時～午後4時）03-3221-8730
- ウェブサイト <https://www.common30.jp/>